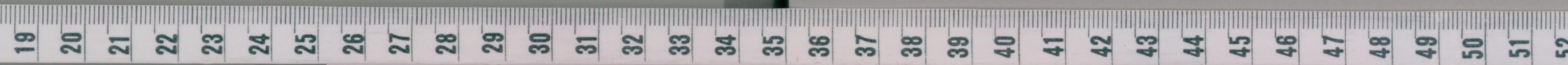
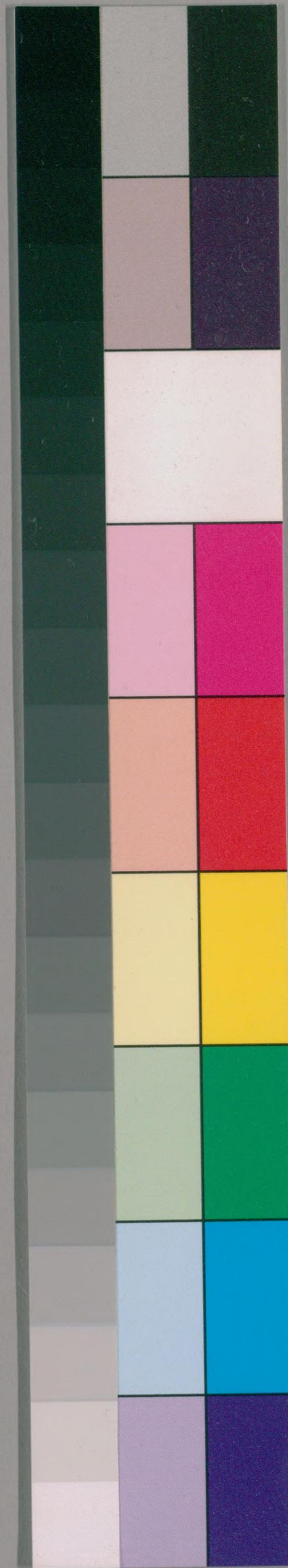


越後國古城並勇士録
下

214.1

E852

W



214.1
E852



560806

越後古城元諸君傳巻之初

頸城郡 雷之澤之丸田用防守

此人親代越後玉安田村之城主是長尾筑前

守高京妹守高之先祖は源頼義と藤下

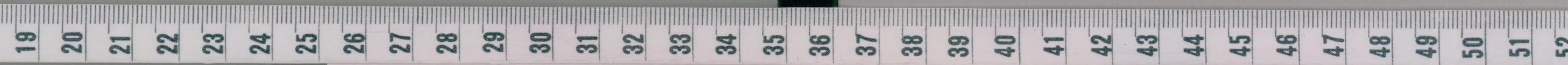
竹地は源光基の後流は元統後玉の出

生は平家清盛入道達は一時源氏太馬氏

義朝のまゝ加ふりしは義朝守高のまゝ

一層通し一時源氏守高に人し内後及無清高

の末葉文明は越後下りは城をくする



頸城郡系奈川の城主并田主馬

光能の土佐に玉相ノ浦に任人あり流浪に
氏家ノ降り数度し奈能尾谷に任人物も不難に
て謙信も不見おされ度く死を命し一丈方奈
能も仕へ之希奈能危在平流奈能自侍の時奈
能も与力して春日山小指奈能も小奈能丹後也と
往合也終に丹後也を寛治の年召する名取と一奈能
川の城主とあり之後長弟我道人の時并田平正
家康も此地登長弟我道人通治の太刀を差す

二百八十余騎もてお城一丈方切替の時家康も
の侍家康とあり之後家康も一侍も少将殿
与力も少将殿とあり之中將も二番家
老もあり之田舎勤の時小栗も佐佐木も役も
あり一隊中も佐佐木も連判も折布も支天樹も
宜し申す之公方家も少不審も之小栗も佐佐木も
罷り侍也又九切也

頸城郡石橋之城主 大行左馬尉

源ノ直馬政義朝ノ家来鎌田共清政清之流胤

平治と合戦小兵朝討領あり尾張玉浪田の海ふ
と鎌田善清討死す之後大井左馬の東ふふ居り
越後の地ハ源人君の安き玉ありと及ふ少越後
ト里とハあふ住人

古志郡 見合水と城と石垣と十布

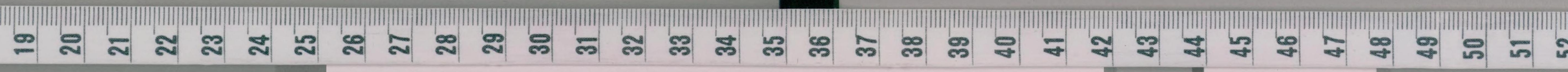
相沢小田原の城と小糸氏康の家来あり上
根謙信と十二度の合戦あり然も大糸原
軍あり石垣と十布 謙信及の武勇ふ小糸
ひ来り幸合水と城と下合とと通とと通

後を京後及合津と玉替と時清信御を
ちり

古志郡 山村と城と 神保新左馬

以人守徳受左馬の尉後秀あり或人あり老人ハ
左馬女旅巻老人ハ新左馬の里越後共礼の
伊豆玉右後河守刃越と杉原因及と来
且信長上田の城と守と入あり時野鹿ふ
て城と守と侍長と及ハ討死を

古志郡 高山城と 堀将監



此城元来は西へ百姓近きを切ぢらばも
楠籠りしを又切落して京移る城なる
秀政の伯父あり故後玉一松の時城と内下
余小倉至徳寺の如誓し廣敷大聖寺門
の通して付死ん

古志郡 枋田の城之 川上至水

此人下野の玉ね馬八布仲清の家来あり
一が過りて文治二年に此頭城郡平井村
へ来りて度武田晴信少少合戦の時枋田

谷村の城へ移る。

古志郡 小山村の城之 大園大親の進

此人枋尾町城に生大実信清ありあり
弓馬に達者浦津村に津谷入庵の伯父
あり浦津の内叙の實より付死ん

古志郡 六日町^市の城之 高橋形部

高橋の城を高橋高直のうまに浪系^の城
至長者若菜高と合戦の時上秋の二日後
の内籠の名人軍兵百を誘ひ実落し先

跡を破る。以時形部大工より名をとり

古志郡長恩寺城 母後守

以城地母後守境邊より築き一處に其を築
長恩園西より南の妙見鎮坂山の猿橋大派東
ハ名山嶺々毎に西の信長原丸所の流絡り
新築近九字六里余あり城地ハ別也而丸
と云在而之物。所城常結危角出集兼家
早彦王町城ハ近々今も日根依り守標
神田町安祥寺境内ハ高台移り守り

以留して安祥寺境内ハ彦王大権現と
社あり

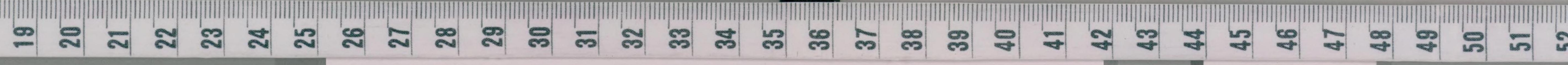
長恩神田安祥寺境内

以不而彦何の能人の城跡と云事とを不
志城母後守長恩城常結出集上り由きて
以不不皆く逗留あり

古志郡柳吉村城 志賀少左兵衛

志賀少左兵衛の春清彦光之人あり今妙長寺
丸山掃部志賀新長清あり物ハ新築城

560806



松平左馬守中守之志如久春清内後之事
多て初も下りて丸山降りたてて柘
尾の陣主宮崎之河守一門通一落城人
宮崎之河守家来名田内通入替りしに
之度又内通取を落して柘尾城を七年
清七帝也。

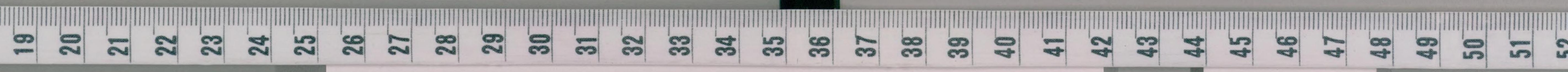
古志郡彦主之殿は城は他守

は人城久を帝一秀政の弟之高田春日山の
城久を帝越中右列城一時は他は處

来。

旧所全京と城を 全京大後

六能の村の西は富り之貴梨子と申す之
文明ははては外家物言ふべし之富
ふは能も大豪智に續け致度し子天
者よは度をも勤き七取百室多て不情は神
一弄進志のいふは之貴梨子大行と申す
其言家一守りたり往來し海路あり別
深泉の築と成りしは古智京の事也詳



小成らも別當様寺開基の大長成若人
鳳光院殿水長鼻大納言定孫 永禄六年通元
四年二十七年
天明寛 人全京大舌殿惣持の時人より京都へ
年迄 後水尾院中三善月の王子は流人の成
栖吉村より岩井の地末より所より地不
思後の里あり

古志郡栲村城至 国野左門

上枚京時及家治令津神刺多玉智以致
一時京時及逆心く況中より之量は素頼

及後見徳川家康云伏見に據りて以中を
傳へて京時退治を致すに配軍定あり
旗本家康云七百餘騎より白河に合致して
信玄はより伊達政宗を殺す事 并伏見山
形本村守と定め津川口へ前田肥前守魁
首の城を築き通軍八村上國路と決定は
松平政宗より大坂に往りし京時軍
の使者も身て信とて候ふ由先く下り候
達政宗共用し合致相和の仙臺村念の

城と倉津、利系の隈、白石、堀、新井
佐、佐、宗、孫、友、ら、り、一、勝、高、千、と、ら、撰、抄、書、
成、し、ぬ、と、仙、卷、の、撰、主、政、宗、友、白、石、の、堀、
軍、兵、五、百、之、子、孫、ま、て、長、を、り、其、初、佐、佐、友、
家、老、斗、と、堀、ふ、ら、ま、後、友、ち、ら、留、与、り、し、
召、斤、念、中、布、石、河、體、河、与、押、歩、白、石、城、を、
政、宗、を、宗、孫、友、と、後、一、と、伊、達、政、宗、と、
始、り、政、宗、民、有、之、練、地、之、法、花、經、八、卷、全、流、
て、書、一、竹、又、舊、の、野、陣、雄、并、長、柄、百、一、節、

兵、糧、殺、千、石、宗、孫、友、と、長、を、逢、瑞、川、方、政、宗、友、近、
延、殺、田、門、馬、と、種、込、也、一、ぬ、掃、村、の、堀、と、園、野、
在、内、延、を、事、り、政、宗、友、石、を、馬、を、切、伏、し、ら、あ、ま、
た、く、逢、延、ら、り、今、物、り、ま、を、時、政、宗、友、古、き、
早、具、是、と、志、一、あ、ら、也、一、召、難、無、と、思、ひ、在、内、
ハ、敵、て、切、角、ハ、敵、ハ、政、宗、友、運、の、續、一、所、之、

古、志、那、所、田、村、城、を、野、村、裁、中、年、
上、秋、民、部、憲、友、友、家、後、建、保、二、年、禰、念、庵、
谷、古、以、ぬ、事、を、時、ハ、依、之、の、野、武、士、多、く、百、



姓耕化を疏用皆山城小集一麻合ふ安村
希野武士を平らるる百姓大野村哉中寺
を号教一館名と唱ふあり其後上牧の家集
とあり上条村外社に及以哉中寺山場小集
田古持系作り上牧名に此を以て教一に依る
上条村に及以花八ッ房宛咲古今稀なる
八ッ房の及是くとも上牧別上条及と中之
古志那村に及以大樂若狭守
大樂浪那を村に城を大樂平馬元及より

て文武両道不違一騎高きと其の首の矣
浪那村に百姓大内福之依後其を及
哉嬉礼入上田退に徘徊一百姓の怨と成
依る大樂及古村に及以所を立く湯り
法村古集に依渡の浪人を及以入上田に百
姓をも若狭守を氏那と号ふあり其後其
貞造の及以子氏二人柏崎長尾の城を古
以城に及以若狭守を教一に依る此地の姓
あり上牧中納言京師及浪人と其を以て

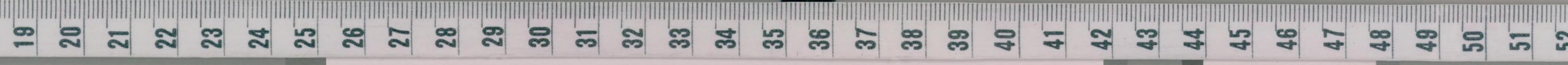
一時津依一浪系の城を武者若島と
類ひ切揚ぐも極十三度ありて物も大に
災波河も、京橋及び親の親とも思ふに依
災り子大常系を計見者三人裁後を多道
豫念より依て裁後成との字に及家以時
裁後不絶きり元来波河も、豫信、忠信
の為将氏浪人の致一佛罷り後之信元上田
より一時若島と地方代官山表依通り地方
お備ふ及しふを備ふ揚て、一玉一の指原檀

金の如来堂へ政考寺中坊を切敷り地方
を本集取ら意不定け字に及り学文の如し
ありは記考あり、以前内表不築彼集と
中寄集あり有鹿苑院寛度法師と
字に及り一寄道と達人と建人新有の如
此作外大内、清冷殿と彼の集、洋秋
を、後林不表炎上、時件、一寄集、焼失
次公卿大臣大切あり、一寄集あり、る、再、及
長、一、也、一、沖、全、縁、一、物、也、大、之、子、一



百歩一尋危角成就不仕彼覺度法師
よゆるの心抱たて七歩の外にゆきとて
空修受渡河もよゆるの心抱一所の子の首
吟不殘是く語り再の築彼集出事古
今稀なる者あり佛の每り争ふ我宗是也
判りて私の大信可仕更にゆく繼人々の登の業と
同し者ふる能冠冠し者事りた天運とる瑞
相ら老く事り絶割くる此のゆ来是れ可記
事と事

古志郡中込村城至 小川兵部右史
平泉大政大臣清盛御嫡子小松の内大臣
重盛公の御徒より池大納言頼成公及世孫
花一の公孫成後越後蒲原郡に申す所
ゆりり事一 時小川兵部右史清盛を來
至池に大信及三条町に城ゆ移り心花燈く
ゆ遷るに後中へゆりてゆら余下た小川及南
村來りゆら余下小川及彼野故と中不有
ゆ氣小池の大信及中込村にゆ巡村に成り



ある月大暑を以て大匠及冷を以てある
氷湯を以てある中流を小名谷の村と申す
よて岩の石を清拭して実を以て冷を以て
に土用清を以てある事あり六
月より土用中あり也

古志郡血を奉城を以て後塚を以て

先程の新田在中将義貞の家は後塚塚守
聖守の後胤あり小名谷の事は八師を以て
成勢通じあり一者之達久四年に成り

に強盛なり一者之城跡斗を以て
築城して任職なり終り家お績の子に
依り後塚を以て一寺建立血を奉城跡
庵の岡に土を以て

招尾の頂村城を以て二本木底蔵

招尾大野村に在り他とて家老とて武勇
の達人の軍学を承り承る事あり時
山二日町に城を築き子孫を待伏の爲に
後塚を以て後野城と城を移す

招尾田の只村城主

玉虫織部

招尾多田の云々任人平家信代に侍せり
平の三位右衛門少輔宗盛及沖子八人
多々忠領政盛信能多河津との部將等
中不し多田一は少して侍子三人多田は統信
平氏と云々任人右馬次持盛及侍子四人等皆
多田に因り東安城に居る八年氏と中
路に不仕り不任長久多田上総より中不し
幾元家臣と成り中後幾元方より甲利の氏

田信吉に侍る信元と云々平家小笠原村玉虫外氏
平不成り以後年中裁儀より田に只村を築
き安原郡に内邸千石切れた所上云々云々

招尾田中候城主 長尾大將

此人の先祖長尾兼景前中納言景の二男也
裁後景礼と侍り只尾田に平尾に城を築り
上総に中不しと成り以後不任一太将也
平不し平不し此の代に城を築り

招尾兼景村城主 石戸平布衣



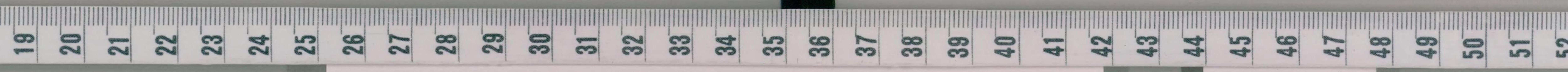
宮内卿の御家老に後及之は是に今并
若使守之家老として之の守城を代り守
護するに應ずる年強向ふ今則ち敵の上
に合戦の時宮内卿の御上代に加勢し尾
遣玉置の御家老として宮内卿に代り守
を及するに御守之御家老に及之は是に
檢す

栢尾栢尾村城主 今并若使守

此人右美谷村石戸に城を後及之は是に
老官内卿の御家老として今并栢尾城地を後
友廓と今并曲將と御守之は是に

栢尾平村城主 志賀之御家老

文明年中長尾左馬の尉頼景家臣として
今并若かり谷より家老として今并若使守
河守定行の御父として生むる御家老として
伊勢新九郎武重物として御家老として
殿始り之時志賀之御家老として今并若使守
之は是に



初尾池と鶴城と 初尾池希長也

徳念が軍持也、時代一移、高千の侍と
然も大浪人、彼少少浪人多く、三喜少也と
史及の以、形事して、蒲原下田城、至若月
多希、進め、来り行、家来と成る。

初尾二日所城也 神子田長門守

以故、少備と、思、何年、大野村、城、移、度
思、信、大、甘、村、城、至、信、の、内、系、信、氏、在
中、城、西、智、少、波、中、侍、神、子、田、大、野、の、城、也

頸城郡 赤田城也 安原平八郎

以人上、後、信、氏、七、子、組、内、武、智、の、侍、上、松、反
相、元、山、田、原、の、場、也、少、系、信、守、赤、補、氏、直、と、上、反
合、幾、時、私、賍、多、く、或、道、之、智、三、希、政、荒、と
信、信、氏、養、子、也、其、の、平、八、希、入、部、也、是、也、
少、よ、上、板、之、備、也、直、以、少、備、守、系、務、反、反
智、の、甥、也、中、説、云、被、一、合、幾、希、り、安、原、信、氏
政、荒、甲、也、五、武、田、務、頼、市、落、也、是、道、田、也、是
武、田、市、の、家、老、海、部、大、炊、也、大、炊、心、深、き、者



よして、幸の逢ふ武田勝頼へ金子普多を遣ふ長
坂友家老へ、金子普多を宛送りてをし、政虎を
切害し由を頼へ、勝頼へ友家老を頼へて、政
虎を殺し首を敵後へ送りて送る。故に、信正
仕合へし時、何者とも不知甲斐武田勝頼及人
子の門へ書身を送る。

金也へは、黄紙の函を大徳へ
旅を長くも、送りてあり
信正へ、西へ、家藏を、事へ、藏

後の金の作りたるなり
武田勝頼及友家老、政虎、勝頼、内
家の作り、如く、事、信正の子息、大徳
あり、たゞ、信正、頼へ、事、信正の子息、大徳
たり、信正、頼へ、事、信正の子息、大徳

奥平部書有故也 山溪在兵の由

信正上田の城を、信正、頼へ、事、信正の子息、大徳
あり、たゞ、信正、頼へ、事、信正の子息、大徳
たり、信正、頼へ、事、信正の子息、大徳



討死に定付受揚千代北御殿を切置夜少領
右馬の殿と討し置

頭城那長峯城主 那須長宗時

柄尾大野村中么公他与京東と成り大野

村川戦に勝つ元永元年 六百石にて牧野右

馬と無右成移り後小長景の城上門戦 元永元年
七百石

蒲原郡 井地峯城主 井地峯 通事女

比人曾尾荒千代及十一軍女配一上松反の家相

後一人と戦一上松反六百石以下 我切り置

不取百石以上七百石 涉子息部中而 京揚反

と侍代一合津一引戦

蒲原郡 山栗山城主 井筒女と也

井地峯反歩女と勝之合津下之合戦討死

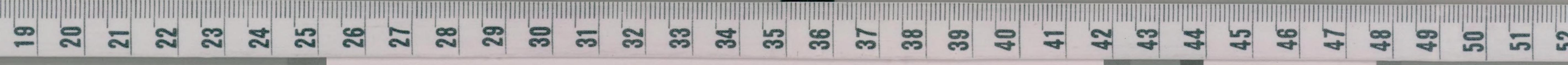
次

柄尾門赤谷村城主 赤谷左馬尉

下野之任人太京反田五太 赤野九代之後胤

那須与市京言数屋浪人の折而此所不

置留之敵之鎌倉將軍在大將頼朝公位白

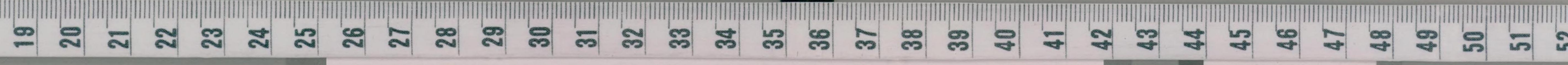


川上院の御院宮と世あり平家清盛入
為追討の九節判官義經を頼る九一谷源平
と内裏を崩し一里八節権浦延合戦あり
千時八節を破りて平家官方府下の九
の節を射大船一艘を射入判官御院あり
て能く大船の射入ありと作る人多
き中にも下野の住人那須と市一宗を
張る今日流流く助先を是東存好は一夫仕
らん建業の赤毛の馬も亦あり能く是後頼

長波の馬の乳の上にお裁体物も大と市
馬より達者方の名人白波清盛ありと矢
を引遠く拳を打つ要の勇物を射抗り
王徳人呼下声も亦陣をて貴しと市一宗
後頼の公も亦とて体も亦直に市一宗
破る赤旗一湖とて能く官者定由と船
中より口争も能く腕も亦時り孫者も亦
て平家時と市一宗を能く一と市一宗後
五平家七文治も亦能くあり家老表も亦

内ふと市伊巻とて其女と流産し裁後く
下る可道とて流産不安産ありと市浪
人の時平丸の流産裁後赤谷村の城某を
位若かり赤谷源内小文治とて其妻あり其
て流産平より使の者小流産其人を教へ懐
中をえり小書状ありとて市友を教へ書
の教へ懐く小文治及流産赤谷の流産り
市巻娘を其の對面に彼流産とて安産く折
市某山某師堂へ安産仕立し儀と市友

一は流産あり流産思ひ家老赤谷源内常
席へ市友ありはけり子あり我等竹生鶴赤天に
て安産して後一あり流産赤山某師如某
の加後とて安産彼人其未け子を病延命下息
あり祈禱の爲赤山某師を以地に移しあり
危しと市友赤谷兼里一字と堂建立し堂
の地取し内小流産く胞衣を納めしと市友
ふと赤谷の教へ一字を流産赤某師と
云流産の裁後還る申子或人あり老人



下野ゆへに傳へ歸里をふふ人ふ赤谷村に殘し
古戸の城をこころに傳へる事瓦少文法金大
乃少海老の内室と成る事瓦完月寺ふふ市
の具足甲籠腹を殘る事赤谷の城を那
須海老布と申家老赤谷と云はる蒲
東國上忍海の城に移り。

古志郡赤谷村城を赤川陣殿と申
先祖の鎌倉武士友友進左文齋流義民能
左文義居る傳り向の御り將軍の上意の家

里は城を築く事久安位居る後上扱と
家伝とあり春日山之書に家老とあり傳
物及今津西智の時奥の福徳の城に移り
家康公今津西智の時入白河口の押し政
宗公或は赤谷の園に家老と云はる事
誓書に今津西智とあり

浦原郡池に城を築く行保壹守
先祖の伝傳る事一族後醍醐天皇御保
護の時日本不殘義興一之孫の一族伝る事

別名は徳養寺山部不城を築き登りて道
一應仁年中より幾度か攻め上りて家奉公
新代勤切をとりて後小舎津に御座りて
城を移して改宗と合致の時次り申上り
至るの時に宗を宗よ今ふ宗氏宗老と成

蒲原郡馬場之城之馬場村

此人常務及浪雲の城を武者若吉清包利を
攻めしむし一時不武者若吉加勢久常務及
清之後より浪雲の城の後左馬場を攻め

天正元年八月落城す

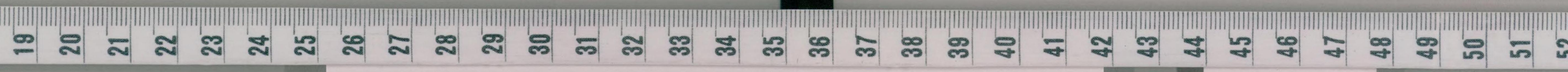
浪雲城

武者若吉清包利

此人常務相別小田原小條氏直縁者より
備信の妻より之布政虎徒者之常務及赤
田村安房平八布政政虎ハ甲辰武田家
落城より一時不武者若吉清包利加勢久
之常務及之常務とありて若吉山に不
修之常務及は城を攻め

新字白山の城

新字田村



春日山（春日山）上牧信徳守為京及今多月は所の漆

の徳因入取るを越え品の徳し商人百姓延ん飽

ちて死し徳事一取扱を成りて京物反

城を築く刑部在る居るを少二四孫六布

後京を美らふ心電を後渡辺移り梨

寺あり渡辺の城を渡辺源次在る此所

は渡辺源次在る六孫王種春の家長渡辺全

吉照とや人のふは金吾照六才の天ヶ七人

才大才より武勇天より不續く者ふ一水瀬の

義人行春と中人違心の時金吾照二直大

将をも心作舟例の才力た或侍夜脱極市

必彼味方の信強よる一六孫王侍有ると成

徳と種春仲之後必花金吾照を派人心作舟

を築く越後くちりは城を築く海部の百字

八天下ノ敵一ありと云ふは侍源治在る之後

何より心を越へはる希す事

西山（西山）城を

松平大馬（松平大馬）の

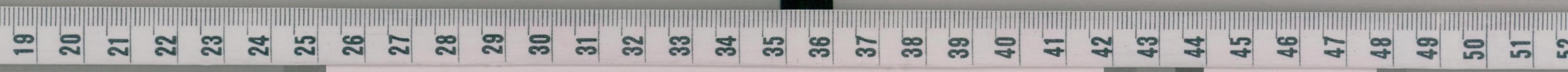
雲上（雲上）入道の子豊後天徳云秀吉との事



織田尾張守信長の意旨に信長公京都奉
願寺に於て聖人と合戦し搦軍不成立り信勢
玉手田中修寺の是寺に於て本願寺の
衆に籠る信長是く取をり其衆のあり評
定あり羽日の曉天下様衆を坊主衆皆切殺
すし其時を夜明け日向守達んく信
長公父子衆命下せし事なる此衆の衆を
と時九割く向ひ毛利大膳衆と輝元と合戦
あり其時を返すし羽衆と衆の光衆を

幸そしあふを帝左馬右衛門殿に
大岡衆の衆に收むる末に帝國光の御方
馬帷子の冠の甲襪をとりて是は是は
生津村山田傳信衆の衆なるし其後衆は
成り

之は那之徳谷城を梅津守衆の
け人春日山上衆と衆光信長守家初後攝
君の入荒中衆をとり其の極の上と隠し
を信長守衆の法衆も其城下の林衆も



影等一太田者あり物色氏赤田城を以て
及之る一京務志田合殿侍彼城を傳
て安及平八福と大不許免と

上野郡上野村城主 上京重太夫

以人長長十某反從者として天羽法上京へ傳り
亦傳り奉り代に越度或生し物色氏京智の立
成り婦子れ一落髪と一々谷の智院へ伝
成り流る紀伊と野山とて死去せり

上野郡大西村城主 成田梅前守

以人具時町平と市栢尾の城攻る時ふ或子
余、訪りて先陣ふ向ふ合津の原とて打
負合ありし一賜りあり

上野郡小千谷城主 上智院海新庵

以海新と市栢尾無法寺法人の傳とす
此上校中納言京務合津へ西替り折市
伏身し京康公の返法へ可向所評定して信
史口へ傳達陸奥守出好口八場久吉市栢尾
と京康公の事作事して京務傳り



出陣に戦後の衣原の者ふたのこ一揆を起
させしむる様退治ふ村上因幡守ゆゑに
舟の御をもとあねにいふを向して京御意
て信一徳大を仰頼し心成一揆路勅を起
しゆふ侍大智院大ゆゑに之を平務の心
振立てゆゑを仰頼し心成一揆路勅を起
捕信の心実ゆゑに切報す

之信那新田城を 七千六百圓情を

亦得元来朝日長者と云人の位也之を地博甚
だ軍あして軍馬並引能き地へ連六代延相
續せし一揆後一揆より赤坂後印。

古志郡芥川村城を 之を凡七信の

以人長尾家光とて子光を惣領の合津信直
守如雲の至大智寺の様に次男是田和泉
也之我申全る家の城を之留たの希ふ親家
惣相續る也之希ふ親家惣領合津信直とて人
長尾信直也之希ふ親家惣領一之由の城
移りし希ふ親家惣領一之由の城



龍守春日山へ移り上杉謙信と申す

三橋郡中条へ城を築き 中条と改む

比久上杉の家臣として七繼し内務卿の者として合はる
御供として今も承安の家老と

古志郡塩釜の故を 山を長門守

光祖の八幡を祀り義家の家臣として浦部と改む

兼隆の子孫を義家と稱す或は部と稱す思ふに

退治として越後へ下向の時御供として下りて

後小大倉少く山嶽強盜を掃くは藤原郡竹

白果村へ逗留して今も後には承安の時

近江守代能任居る

藤原郡少子塚城を築き今も藤原郡

比人人皇孫代の帝桓武天皇の御代春日の王

子桃園の親王越後へ流人の時御供として

流りし是處を以て村を築き今も少子塚と

信長戸隠九頭銃を御供して志願して御誕生あり

里ありて別外道丸と申す同郡國寺と申す

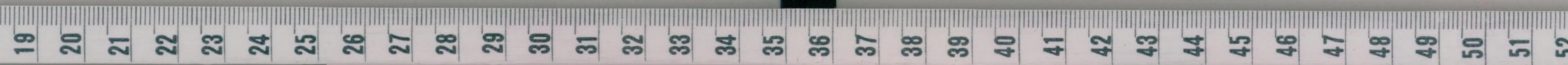
に奉りて今も後信長戸隠山と申す今も母殿と

死むふふ糸の上より女希ふ決と申あり
其魂今も波のよも影もあふ事一は池反の跡
鷹新し皇野何系と云ふ人の所成あふり石
碑ふ正三位池と大納言平頼盛とありて皇
野氏先祖を以地侍ありしか池反彼方にお
已しやふと跡像も残りくありしや一年後あふ
流も新谷田川をとりゆふ或人は是を以て池縁
程の跡方の像ありとく流ありし中らゆふ
は跡像候ふ押返しし川と流も幸ふ村と云

度より或者は是を以て松の長を後皇野
氏方なりきしゆふ後一あり今彼村小堂を
建案並にもの。皇野氏ハ溝にありて石津領
分若石の支配あり大納言御下りの若石京
都方跡候ししより一人は線々申候ふ氏家
とありて教多人くあり也

信実名目光部

信実名目依友以云く事之元暦元年小原
九希判良貞名云く平家通運く為京都へ登



塔あり

蒲原郡法花堂城を種子田八右衛門
以人越後一揆の時村上周防等と合戦し
村上軍兵二子勝おんたの極ありて復會
津へ京務入くまへし陸奥守と合戦の
時筑紫の信より

之郡原毛の城を 其初直江守

以人佐後守と父之上秋安居守の信方の家来
たり代り越後之信郡飯坂原毛之城を之也

額佐後守の古志郡内橋浜村を以て二田大
膳跡目を相續し分田の城を以て討死す佐
後守の合津より白石の城を以て成る

蒲原郡橋本之城を 長久河守と合戦の

以人の武勇大方法人の持也信長川中橋に
合戦の時甲辰武田守右衛門長久河守
右長久河守と合戦の城をお信に以て時務を以て
川中橋越後の支配と成る

蒲原郡後臺之城を 栗田刑部

此人、金津より、意務屋傳の内を逃る
家康より奉るべし、或夜、金津の堀を迂出
し、時、意務屋伝の後、以、彼軍營をわし、追
るをせらるるも、及、まて、生捕、金津三の村を、あ
れ、梅も、末代、此の、名を、稱し、あ、り、と、今、海、松
浦、事。

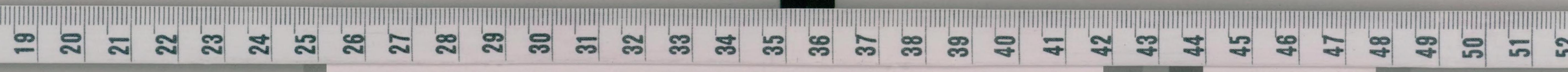
蒲原郡、澁谷の故を、神三太、而、京、茂
六人、舟、出、の、た、大、長、橋、の、師、意、之、の、後、亂、捕、判
官、之、家、の、婿、男、京、方、西、運、女、之、房、内、及、宮、内、。

娘、之、物、之、處、内、及、宮、内、返、り、忠、之、を、表、務、也。
師、直、之、路、の、節、日、之、後、之、を、女、房、を、親、之、を
返、入、内、及、宮、内、方、之、を、安、産、一、男、子、あ、り、建
地、田、無、奉、し、女、り、養、之、子、と、あ、り、之、後、裁、處、之、末
上、神、三、の、舞、之、あ、り、神、三、太、而、と、名、を、あ、り
後、不、お、家、一、澁、谷、村、慈、光、寺、園、基、也。

蒲原郡、鏡、深、の、城、之、京、井、土、佐、守
其、首、身、之、京、田、川、の、城、之、安、部、貞、任、家
末、黒、之、之、清、之、の、中、之、後、安、部、貞、任、孫

敵の身八情を希義家所り向ありて九年に
る合戦あり、自任落城して父伯耆補
兼家平送んて三年、内合戦あり落
城して家来思き無情、久落し、敵後の玉
村上根矢の浦へ逃れ、駿の軍兵を信
義、後おれ奥別、の切腹んと計る、い軍都
安く、く八情、及、清子息、或、又、痛、義、因、及、六
百騎の涉、勢、よ、て、能、登、の、海、光、よ、安、り、也、
根矢の浦へ、押、寄、り、あ、ふ、と、交、り、く、思、き、る、無、情

海を渡り、喜、情、と、云、處、所、信、美、丸、を、お、取、
ひ、彼、蒲、京、郡、程、方、の、城、に、籠、り、し、く、義、兵、
及、城、へ、あ、り、及、あ、り、思、き、る、家、来、に、人、に、
立、山、大、膳、思、山、天、魔、無、情、浪、念、軍、兵、思、勝、
入、道、大、膳、よ、て、割、り、入、り、火、花、を、散、り、し、
敵、不、意、思、き、る、失、念、を、見、お、し、天、子、向、り、呪、
文、を、詠、ひ、し、く、八、思、を、一、村、軍、兵、の、上、に、
ふ、と、あ、り、し、く、雷、光、射、り、し、く、大、勢、を、中、に、
取、り、し、時、義、兵、が、帶、を、振、り、上、り、南、に、八



情大菩薩と新羅と名経ハ味方の陣情
の陰より二軍争りの大勢形もあつて
彼大勢を頭取して攻を孤む勢急消へ
し大勢も又何もつ飛去りて軍兵を
を連り、幾ふ所中人の者ども皆く討ち失念
か飛りり軍兵或百餘程切敷義由及家
其の内海邊中も思ふく飛去りたがふ
後負つたがれハ在り引くもあふ義由及
らと矢を引遠くより射又放りて思

多か物取を碎き矢を後へ射通し一
思ふく弱くも思ふく射通し一死體
池へ埋りりし前ハ大申へ埋りし上ハ
建立ハ情大菩薩の神靈を敬法し一
京都ハ神降陣も先ハ死體時^{ウチ}後
より見る人病もあふ京都ハ義由及陣甲
を降下しありて池へ沈み守陣し程ハ
放後退し中へ入振ふ城より土佐守と
人死候し後ハ絶り



村上の城主・足利能登守信吉

少國一の留守あり上杉謙信家来成るる者
の傳之物を度京橋及津佐にて合津へ引
掛栗田刑部と申合也合津を立依是
家来守り奉る可致と斗る京橋及津佐
多之橋補刑部は引不津成及みぬあり

蒲原郡村松城主 初代 伴信盛

以人下蒲原郡水原と城を以て天正の辰村松移
り京橋と改名合戦の時赤田の城主と

小糸丹後守を殺して突一将小丹後守

大集の多く馬より切腹す赤田にて死す

加治の城主 梶友宗元

上杉と家来とを虎千代及丹地等とて元後の
時相模の春日山合戦の時一書録とて自物
多し江合合戦の時一書及津佐守伴軍
多し切腹し物多しとて死す

笠原村の城主 笠原新左衛門

上杉謙信及相模所軍の時身代所平兵衛



家、本歴十布、の権、徳を、つ、右の統を
い、毎、命、我、人、の、信、せ、た、物、も、大、教、教、育、人、計、を、を
中、後、判、勢、を、

月、雲、村、の、城、を、

寛、永、公、治、の、

先、能、山、野、五、郎、右、衛、門、の、忠、領、永、享、年、中、公、所、を、
奉、云、一、中、後、甲、辰、山、雲、原、家、に、來、る、後、よ、い、に、
ある。

中、尾、の、城、を、

中、尾、文、治、吉、辰、

お、生、八、浦、原、郡、下、田、の、山、奥、池、の、多、神、の、是、

山、陸、道、不、化、言、花、の、り、一、と、牛、馬、を、始、め、人、ら、近、云、給、
ふ、事、一、鶴、を、文、治、是、を、退、治、一、と、代、々、越、後、不、隠、
ふ、兒、我、を、成、る、豫、念、右、左、の、頼、朝、公、仲、代、下、野、五、
那、須、原、市、宗、を、成、り、中、後、長、尾、信、徳、の、家、
來、り、上、総、の、と、改、め、子、令、傳、氏、信、守、り、思、
田、和、泉、と、お、人、主、人、不、忠、一、為、京、を、害、一、カ、久、
之、命、又、十、瓦、百、字、を、傳、り、上、松、家、を、成、り、弟、信、成、
之、命、都、部、寺、の、城、を、大、徳、後、前、守、
六、人、小、千、谷、右、山、原、三、千、石、切、成、り、建、久、三、年、の、以、



玉上の道近皆領地不しく、京兆必老一、
これ中侍、我十部社、成り、禪所坊玉上、
入學、四、事、二、孫、左、馬、社、經、軍、營、を、
捕、く、ん、と、玉、上、を、攻、む、彼、前、を、
掃、禪、所、坊、物、多、ら、屯、一、不、二、反、立、後、
公の陣上意ありと傳り、傳前、
切腹中身、

蒲原郡赤坂の城、清水内義、

栢尾町の城、大園信、

軍不成り、栢尾を、
清水、
会、
より、天正八年、

赤谷左馬、

先、
玉、
槽、
京、

寺師の分家也志根夫の浦より出ぬ玉店内
表割坂堂取陣より奥に去り御館へ移る
時豫念頼朝より討手の勢向ふ由り依る
去り兼り少玉の勢増え多の前田部之地侍
雲井井ありと子勢を言騎付て御後致さる御
あり物も大に布へ去る事あり一文化と
年十二月秀衡死去の後一人の子供あり致し
以時豫念より家達四篇二千金騎のて追われ
義経を討たり赤谷在兵の再入奥に歸る人雲舟

の百子を引替て下の地を象名といれ代赤
谷の城を成り一石見所平六篇より赤谷
の城へ子勢を言せさせ在兵の見討の城の當主
吾を致し赤谷の城を三津谷の入庵村去せ
城中大兵を言せ焼赤谷を討たる物も大子も
或人より京移り今津に留り時赤谷の城を
攻め入る城

今津境切森村城を溝に信法寺

以城へ元来新設回の城を溝に伯耆守移代

信長平家の後継の時分野武士多く越後
来り蒲原郡の因を御相承有り物考古是
を切たり西越後は時不去年不流り所伯
老守大坂佐ら屯り海とて百姓共一橋を
託以時又大乱起りあり

信原郡三ツ山城を須田大坂と云

先祖の社又の名目以希重忠の後胤鎌倉信
代の侍と云ふ事不あり是利が軍義照の
の代上校憲政少裁降り向の時信長流し也

と一集不流りとは地の城と成る武勇并
者あり京務及降依りて今津く所停達
陸奥守と合衆の時より極多り一平後平次
ノ西智の時流依りて今平次の家老と

蒲原郡横田城を松平佐馬守

は人の所郡新ノ城をねかた馬ノ御り人より
好業筑前守より言ふ毛利輝元と合衆の時言
者あり平家の大坂秀頼と家康を御大坂
の時大坂守加勢一平田左衛門行村より加

軍兵多し討取あり物是は落城の時
討死す

梨城を 梨城を 梨城を

上校五智の時大智入智りふ世世の輝く行村
上の領事五百石如取一處百姓を以て年貢
を不納り監之後彼一刻元日人首討百姓
云今も城より火を以て一棧路動く城焼失く將
監切後しく今も城あり

古志郡 言音城を

言音城を

以人内裏山角の武士を越後より流人し安ふ
自物と地方棟梁と成り村を治る言音村
と云ふ

之橋郡 東近寺の城を

青木五馬

如生々危漫玉電知郡之古園奉公一より言ふ
朝鮮通流の時加茂主計氏自勢を以て
支那の如く之の城を討取り朝鮮の軍兵不
討ふと云ふ如くもんを道の地中へ逃入し加茂
清政寺へ逃入り朝鮮の書を以てし

其後何事も成らず、浮心不思、後ふ思ひ上
秋篠信及申登く、秋篠新夜日の城、不任
度由、新と上夜、后と思ふ、心憂き事、之来
り、終くと、より、浮心、信ひ、以、地、移り、終く、遷
る、あり、と、

蒲原郡、筑前根の城を、神子、田長門守
以人、法花山の城を、八古、馬の子、柏尾町の城を、皆
任、久、津、堀、の、来、里、一、和、之、系、所、の、城、を、市、橋
下、終、り、故、智、一、之、系、の、城、を、移、り、里、裏、能、と、云

處、よ、長、門、守、故、終、り、と、云

岩永郡、寺野、城を、水野、常陸、の、近、別
以人、寺野、村、移、代、の、表、志、上、夜、常、務、及、家、長
智、化、而、の、と、業、一、里、之、秋、後、上、夜、の、合、致、ふ、不
お、と、云、ふ、事、ふ、一、給、の、名、人、と、云、今、津、く、津、信
一、弟、信、一、家、康、の、野、陣、の、時、も、七、世、の、内、今
津、園、山、の、松、系、信、ひ、の、大、將、と、

之、終、郡、中、少、将、を、中、系、裁、前、守
以、裁、前、守、の、表、松、代、の、武、印、の、傳、へ、今、津、表、く



家康公徳川向の侍 遠坂福田川幸後
京の徳川の大御として西京の清方の流し酒
桶を埋水をもりて宴ふ候

長岡友直場主 新日友直

上敷後飯野城主 忠徳慶事入在在東御京

京徳二年 長尾氏京と殿ハ古志郡向京とて
死入之 後長尾山四布 京行候

惣て越後の四城殺入人ヶ城

上敷民部大夫憲政謙念下向して古志郡

子息兵部大夫憲宗十八歳出京伊豆小如意将

其子浪部大夫憲方房方朝方定房

能清方房実長尾之布之房実長尾子十九

以上

家康公今津へ御夜向し事

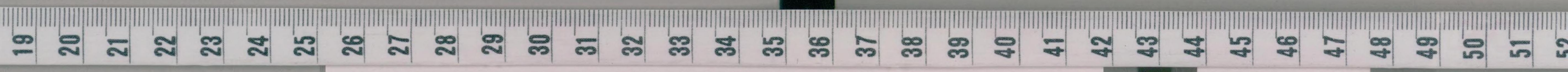
上秋京猪友運心の由春日山の場主場久冬布

秀治首方大坂表へ江進入後身家康公又又

京猪中へ常の討事して入石守我張向討陣

後と内後一 家康と父とと合戦を返領の
家督の百子の子をを集取ふん事とを傳り代々の
春日山と智を今平六百石計を領地と一喜
上今及我身と礼いと云立掃部と家督の事
と云と云く一喜申く云解りく一喜也 春日山保
陽崎と云共物も大親代の家康あるる父上とし
ゆり一喜れめと父今又を元の親と成り一喜
の身の上親今も本と喰ま本をせしと本と換
親の精の親もあく一喜も廣又上校の親と喰

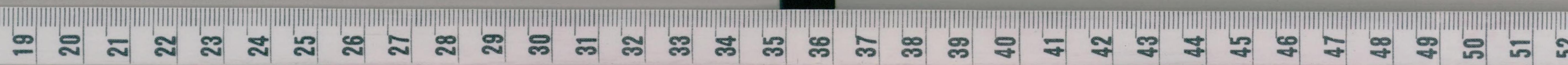
るが其家康を傳る今母が云く一喜一喜をいふ
やしてをる事も一喜子代に山城守をいふゆゆ
より一喜山の上中一喜ゆい山城守馬よる
を一喜本守り度由強ひより何んゆく一喜あき山
事ありと馬のゆく事もを定むと事と云
一喜子代に山城守と云く一喜光の山城守
後り古咽の事通一喜代先祖の志の設計
取きりと事と云く一喜なる事と云く
中道智侍皆感ん致しあり一喜表の御心傳候



常徳ノ器アリ一リと皆入肝を冷しあり直にう痛
子持部 母の法をく。常人の作分は時山成る
象純 事なり

常徳ノ器アリ一リと皆入肝を冷しあり直にう痛
子持部 母の法をく。常人の作分は時山成る
象純 事なり

5
2
15





国立国会図書館

タイトル『越後国古城並勇士録：2巻』 請求記号 214.1-E852

ガラス使用